

圧送業界で初の認定

「DBJ BCM格付」取得

国内有数のコンクリート圧送業者であるヤマコン（山形県山形市、佐藤隆彦社長）は、このほど、日本政策投資銀行（DBJ）の格付融資制度「DBJ BCM格付」において「防災および事業継続に関する取り組みが十分」とする格付を取得するとともに、同制度に基づく融資を受けたと発表した。コンクリート圧送業界において同認定を取得するのは同社が初めてであり、山形県の企業としても2社目になるといえる。7月27日に本社で認定授与式が行われ、松岡基嗣DBJ東北支店長から佐藤社長に認定証が手渡された。



松岡基嗣DBJ東北支店長（左）と佐藤隆彦社長

DBJ BCM格付はDBJが開発した独自の評価システムにより、防災および事業継続への取り組みが優れた企業を評価・選定する「BCM格付」の専門手法を導入した融資メニュー。あらゆる危機的事態に直面しても従業員の命を守り（防災対策）、事業を継続する経営戦略と対応力（事業継続対策）を総合的に評価する。

ヤマコンは2011年の東日本震災で仙台支店が浸水被害を受けた際、従業員の安全確認と業務の復旧に時間を要したことを機に「災害に強い企業」を目指す取り組みに着手した。独自のBCP（事業継続計画）を策定し、毎年内容のレビューを行うとともに地域防災への貢献を重視。山形市、天童市、上山市など各自治体との間

に、同社が加盟する山形県コンクリート圧送協会および山形県生コンクリート協同組合との三者協定を締結し、災害時における消防活動応援を行うこととしている。

今回、同社は以下の3点の取り組みにおいて高い評価を受けた。

- ① トップマネジメントが参加するBCM推進会議を通じて都度課題の洗い出しを実施し、自然災害リスクの低減に向けて耐震化工事や事務所機能の移転を行うなど、ハード面から従業員の生命安全保障に資する防災対策を実践している点
- ② 地域を支えるインフラ事業者としての社会的役割を認識し、地域防災への貢献の観点から行政

主権の合同防災訓練に継続的に参加しているほか、有事における顧客・社会からのニーズに応えるべく重要業務の選定や目標復旧時間の設定を行っている点

③ 上記社会的役割を果たすため、調達先の複数化や優先供給協定の締結を通じてサプライチェーン上のリスク低減に努めていることに加え、業界

団体との間でリソース融通を想定した協力関係を構築するなど、事業継続力向上に向けた個別の取り組みを展開している点

認定授与式で佐藤社長は「当社は創業56年の歴史を有し、コンクリート圧送業のなかでは有数の会社であるが、他産業の大きな会社と比べれば小さな中小企業であり、防災および事業継続対策も他業種の先行事例を見よう見まねでやってきたところがある。今回の認定取得は、そうした一連の取り組みに対して高い評価をいただいたものであり、非常に嬉しく思っている。今後も格付にふさわしい企業であり続けられるよう努めていきたい」と述べた。